

黄斑上膜手術前後の歪視と網膜移動量の術後 1 年経過後の評価に関する 研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020 年 11 月 19 日～ 2021 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

黄斑上膜手術前後の歪視と網膜移動量の術後 1 年経過後の評価

〔研究目的〕

黄斑上膜手術前後の歪視と網膜移動量の長期的な変化を追跡すること

〔研究意義〕

黄斑円孔、黄斑上膜や黄斑浮腫などの疾患に対する硝子体手術では、黄斑を含む後極網膜の内境界膜剥離が広く行われています。2014 年に我々は、黄斑上膜に対する内境界膜剥離を用いた硝子体手術後に黄斑部を含む垂直方向の網膜が術前より拡大しており、術後 3 ヶ月間で水平方向の歪視と垂直方向の網膜移動距離の大きさが相関することを報告しました。手術後の歪視の長期的な変化については諸説あり、症状固定までにかかる期間が明確ではありません。今回は帝京大学医学部附属溝口病院眼科で経験した黄斑上膜において、手術前後で歪視と網膜移動を測定し評価します。もし、年齢、性別、糖尿病・高血圧の既往の有無や術後網膜移動量と歪視に長期的な相関が認められれば、術後の視力や歪視の予後をある程度予測することが可能になります。

〔対象・研究方法〕

帝京大学医学部附属溝口病院眼科において 2016 年 4 月 1 日から 2018 年 10 月 30 日までに帝京大学医学部附属溝口病院眼科で黄斑上膜の手術を受け、その後 1 年間経過観察することができた患者さんです。対象人数は 70 から 100 名です。あなたの年齢、性別、糖尿病・高血圧の既往、角膜曲率半径、屈折、視力、眼圧、眼軸長、M-CHARTS、アニセイコニア、角膜厚、黄斑上膜術前後の光干渉断層計 (SD-OCT; Spectralis) で測定した網膜像上で黄斑部を含む特定の血管分岐部または交差部までの距離を診療記録より収集します。この研究のために新たに検査する必要はありません。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院 眼科

〔個人情報の取り扱い〕

あなたのカルテの個人情報をこの研究に使用する際には、あなたのお名前の代わりに研究用の番号を付けて取り扱います。あなたと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、帝京大学医学部附属溝口病院眼科内のインターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、同分野の職員によって入室が管理されており、第三者が立ち入ることはで

きません。この研究によって取得した個人情報、帝京大学医学部附属溝口病院・教授・今村 裕の責任の下、厳重な管理を行い解析が行われます。

また、この研究の成果を学会で発表したり、医学論文にする場合にも、あなたが特定できる情報を使用することはありません。

[その他]

追加となる検査はありません。ご負担やお支払いの必要もございません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究実施責任者：	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	教授	今村 裕
研究情報管理責任者：	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	講師	竹山 明日香
研究実施担当者：	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	教授	今村 裕
	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	講師	竹山 明日香
	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	助手	柴田 匡幾
	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	助手	小宮 有子
	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	助手	藤本 太一
	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	員外助手	渡邊 天翔

住所： TEL： 044-844-3333 （代表）〔内線 8112〕